

○議長（茅沼隆文）

引き続き、一般質問を行います。

1 番、佐々木昇議員、どうぞ。

○1 番（佐々木昇）

皆様、こんにちは。1 番議員、佐々木昇でございます。

本日は、通告に従い一つの項目について質問させていただきます。「町制施行 60 周年記念事業後半戦に向けて」について、お伺いいたします。

本年 2 月 1 日に町制施行 60 周年を迎えた開成町、5 月には新しくみなみ地区が誕生する等、60 周年を迎える本年は町民にとって新たなスタートになる 1 年となりました。町制施行 60 周年記念事業も、2 月 1 日の記念式典を皮切りに、人気キャスターによる記念講演会の実施、東アジア文化交渉学会の誘致は町民の参加も多く一定の成果をおさめ、また新ロゴマークの作成、町のホームページのリニューアル、町公式マスコットキャラクターの活用も開成町のイメージアップやブランディングの向上につながりました。

記念事業の実施期間も残り 4 カ月を切り、これからは町民体育祭、サイクルスポーツフェスタ等、イベントが続きます。1 年間を通して全ての記念事業で成果を上げることこそ、幅広い層での町民が町への関心を高め、さらなる町の活性化につながることを考えております。今日までの記念事業を検証し、残りの事業に反映させていく必要があると考えております。町の考え方と今後の方針について、お伺いいたします。1、今日までに実施した記念事業の成果と反省は、2、町民体育祭への取り組みは、3、サイクルスポーツフェスタ開催の詳細は、4、冠事業・連携事業への具体的な事業内容は、5、60 周年記念ロゴの入ったグッズ等の反響はについて、お伺いいたします。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

佐々木議員のご質問にお答えします。

平成 27 年 2 月 1 日に町制施行 60 周年を迎え、第五次開成町総合計画の将来都市像である明るい未来に向けて人と自然が輝く町・開成の実現に向け、町政の歴史と歩みを振り返り、町民、各種団体、町が手を携え、開成町を日本一元気な町にすることを趣旨にさまざまな記念事業等を実施しているところであります。

一つ目の今日まで実施した記念事業の成果と反省について、お答えします。

町制施行 60 周年を機会に、「田舎モダン」のキャッチフレーズやロゴマークを作成した結果、将来に向けての開成町のイメージアップ、イメージチェンジが図られるとともに、町内外に開成町の元気を発信する媒体として大きな役割を発揮しているものと考えております。また、あじさいちゃんのデザインを一新し、さまざまなイベントへの参加や各種キャラクターグッズの販売などの PR 活動により、あじさいちゃんの知名度と人気が高まり、全国規模のイベントであるゆるキャラグラン

プリ 2015 にも挑戦し、開成町の PR に貢献をしております。この「田舎モダン」と「あじさいちゃん」は、町のイメージ戦略や PR 戦略に欠かせないものとして、これまで以上に活用を図っていきたいと考えております。

町制施行 60 周年記念事業につきましては、実行委員会により推進していることから現時点において総括的な評価についての言及は避けませんが、これまでの 60 周年関連事業においては、多くの町民の皆さんとともにさまざまな事業を盛大に開催できたことや、あじさい祭も 60 周年に関連したイベントを組み合わせることにより過去最高の観光客数を達成するという成果も出ていることから、これまでの 60 周年記念事業の取り組みに大いに満足をしております。

一部事例として挙げさせていただければ、「東アジア文化交渉学会 in 開成」では、これまで各国の大学で行われていた国際学会を官民連携で開催した結果、国内外の研究者約 170 人が参加されるといった画期的な取り組みとすることができました。また、ブランディングの一環で実施したホームページのリニューアルについては、トップページをはじめ全てのデザインを一新しました。これらにつきましても、斬新でおしゃれなつくりになったと好評をいただいております。読み上げシステム等も導入し、閲覧者に役立つ機能も付加したことで見やすさや操作性の向上も図ることができました。

ただ一つ、反省点といたしまして、住宅地図の作成に当たり一部町民の皆様から苦情をいただいている現状があります。60 周年記念事業実施の趣旨を改めて確認し、町内外に町の元気を一層 PR していき、町の定住促進を図っていきたいと考えております。

2 問目の町民体育祭への取り組みについて、お答えします。

町民体育祭は、スポーツを通じて町民同士の交流機会をつくり町活性化の促進を図ることを目的に開催するもので、町民が一堂に会し体を動かすイベントとなります。自治会はもとより多くの町民が顔を合わせる機会として、町の元気、地域の活性化を図るものとして有効な手段であると考えておりますが、町制施行 60 周年記念事業として、基本的には今年度限定で開催する予定であります。

次に、サイクルスポーツフェスタの開催について。

開成町では以前から、町域全体が平たんであるという特性を生かし、また地球環境への負荷軽減や健康増進への寄与の観点から、日常的な交通手段として自転車利用を推進しております。サイクルスポーツフェスタは、町制施行 60 周年記念事業の一環として自転車への関心をより一層高めるとともに、町民の健康増進、スポーツ振興を通じて地域の活性化を図ることを目的に開催するものであります。開成水辺スポーツ公園での各種教室の開催やサイクルパフォーマンス等、イベントと合わせて、足柄上地域 1 市 5 町をめぐるロングライド開催を予定しております。

次に、冠事業・連携事業の具体的な事業内容についてお答えします。

町制施行 60 周年記念事業として平成 27 年 1 月から 12 月までの期間に実施を計画した事業は、記念冠事業 16 事業、連携事業 5 事業、団体事業 5 事業、ブラン

ディング事業 20 事業の全部で 46 事業に上ります。その 46 事業のうち 37 事業については既に実施または着手をしており、残すところ 9 事業となっております。多くの事業が該当しますので、個々の事業内容に触れるのは控えさせていただきます。

次に、60 周年記念ロゴの入ったグッズの反響について。

「田舎モダン」と「あじさいちゃん」のイラストは、封筒や T シャツ、名刺に至るまで細部にわたり活用し、町のイメージチェンジを発信してまいりました。町として、さまざまな部分で初の試みとなりましたが、開成町が 60 周年を新たなスタートの契機として力強く変化していこうとする気概が多く町の民に伝わったと感じております。また、町外の自治体からも好評で、町の元気が広く発信できたと確信をしております。今後につきましても、「開成町って何かいいね」というイメージ戦略として「田舎モダン」及び「あじさいちゃん」を活用し、開成町の元気の発信、開成町の PR に努め、定住促進の政策達成を図っていきたいと考えております。

以上であります。

○議長（茅沼隆文）

佐々木議員。

○1 番（佐々木昇）

ただいま町長から一定の答弁をいただきまして、順次再質問させていただきます。

ただいまの答弁で、これまでの 60 周年記念の事業の取り組みには満足しているということで、ここまでは順調に來ているのかなということで理解させていただきます。

そして、先ほど答弁にございました「あじさいちゃん」が、ゆるキャラグランプリに今年、挑戦しているということですが、私もここのあれはちょこちょこホームページでチェックさせていただいているのですが、今日の朝も一応確認してきたところ、全体の 1, 720 組のうち 280 位、ご当地ランキングのほうでは 1, 087 組中で 194 位と、私的には、これ、現在、大健闘しているのかなというふうに思っているのですけれども。

ゆるキャラは、まちおこし的には非常に大きな武器にもなりますので、世間ではお祭りのようなイメージで、そんな感じがありますけれども、私は、ここを真剣に 200 位以内、これですね。200 位以内ですと、ゆるキャラグランプリのホームページに過去の結果として写真付きで残っておりますので、現在、そこを狙えるくらいの位置にいると思いますので、ここは多少の労力、経費を使ってでも真剣に上位を狙っていただきたいというふうに考えているのですけれども、この辺の町の考えをお伺いしたいと思います。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

ありがとうございます。佐々木議員も毎日、投票していただいていると。20 位

ではなくて私は10位以内を実は目指しておりまして、浜松で行われているところに行きたいなということで。でも、なかなか、今、実際、数字が伸びていないということで、まだまだPRが町内においても足りないとは私は認識をしております。

実は、できるだけいろいろなところにPRしなくてはいけないということで、昨日、小田原ジェイコムのケーブルテレビとFM小田原で、あじさいちゃんも一緒に行ってジェイコムには出させていただいて、ゆるキャラグランプリの件もあわせてPRもさせていただいて。ジェイコムのアナウンサーとFM小田原の女性アナウンサー、2人は、もう前から、あじさい祭のときからすごく気に入っていただいたようで、やはりファンが増えると、そこからまた波及効果がありますので、そういう人たちをできるだけ多く広めていかななくてはいけないので。

広めるだけではなくて、投票を毎日していただかなくてはいけないという。投票の仕方も、もう少し町民の皆さんにもアピールしていく必要があるかなと。前回の町の広報にも出させていただきましたけれども、もう一度、10月の広報にも改めて皆さんにもPRをもっともっていききたいと。期間は11月までありますので、その点は、もっともっと、PRがまだ足りないとは私は認識をしておりますので、あらゆるところに行って、そのPRをしていきたいと考えております。

○議長（茅沼隆文）

佐々木議員。

○1番（佐々木昇）

ただいま町長から10位以内と。私も、何かとても、200位以内と、ちょっと恥ずかしいような。力強い町長からの意見を聞いて、ぜひ10位以内を目指していただきたいと。この順位、とらうとして、今、町長から一応、今後、票伸ばしのための考え方みたいなものを伺ったのですけれども、もう少し具体的に何か動きがあるようでしたら伺いたいのですけれども。

○議長（茅沼隆文）

企画政策課長。

○企画政策課長（岩本浩二）

ゆるキャラグランプリの関係で、これからのPR活動についてでございますが、今後、町長も申し上げましたとおりPR活動を精力的に行っていくということの中で、名刺等をつくって企業回りですとか、ある意味、自治会のイベント等を捉えさせていただいて、参加させていただいて、営業活動を地道に行っていくということ。それと、ある程度、組織票みたいなところで票を伸ばさないと順位も上がってまいりませんので、人が集まる場所には、ぜひ積極的に出てPRをしてまいりたいと考えてございます。

○議長（茅沼隆文）

佐々木議員。

○1番（佐々木昇）

このゆるキャラの知名度というのは今後の開成町にとって非常に大きく影響する

というふうに思うので、ぜひ、よい結果が出ることを期待しております。

続きまして、先ほどの答弁で反省点として地図の作成について苦情をいただいているということで答弁いただきましたけれども、私も、これについて住民の方から何件かご意見を聞いているのですけれども、この苦情、現在、どのような状況なのか、お伺いいたします。

○議長（茅沼隆文）

自治活動応援課長。

○自治活動応援課長（遠藤直紀）

地図の件につきまして、お答えをさせていただきます。

地図につきまして、まず、どのような苦情、お問い合わせがあるかということでございますが、こちらの地図につきましては町制60周年記念版として発刊し、自治会回覧であっせんしたオリジナルの住宅地図になります。これに対しまして、一部の町民の方から苦情、問い合わせが寄せられているということでございます。主な内容としましては、以前、町内業者で実用文化地図社さんが作成をした地図がございしますが、そちらの地図と比べますと情報の精度が低いのではないかなというところが一番多く、中には、これは寄せられている意見なので申しますと、ちょっと返したいのだけというような声もいただいているところがございます。

以上でございます。

○議長（茅沼隆文）

佐々木議員。

○1番（佐々木昇）

私も同じような意見をいただいているのですけれども、確かに精度が低いということで、この会社がつくっている地図だといえ、そうなのですから、もう少し細かいところと言わせていただければ、表紙の写真ですか、この辺の点字ブロックあたりもひどい状況で写ったりしているというような、そこまでの意見なんかも聞いております。

今、地図をつくっているゼンリンさんという地図は、そういうところだというふうな部分もありますけれども、町民の方たちは行政がやられることにある程度信用しているところもございまして、中身をそこまでチェックをしないというような状況もあった中で、こういうことが起こったのかなというふうに思っておるのですけれども、事実、こういうことになっておりますので、町として今後の対応について、今、現状、どのようにお考えなのか、お伺いいたします。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

今、課長から一部、苦情の話がありましたけれども、もっと具体的に話をさせていただくと、やはり私も自分自身、実際、実感しました。そのチェックを事前に発行の前にしていなかったというのは、町の不手際だと私も思っております。

そういった中で、自治会長会議の中でもそれぞれの地域の自治会の皆さんから苦情を受けて、自治会長会議の中でいろいろなご意見をいただいて、今、ゼンリンに対して、こういういろいろな苦情が具体的に出ていると、会社として、そのやり方について。今まで私たちも、先ほど言いましたように香川さんの実用社の地図、それでなれてしまっていたので、そういうものができ上がってくると勝手にイメージを持っていたということで、それは我々のチェックのミスだと思っております。

それも含めて、これからゼンリンさんに、我々の町の地図をこれからつくるに当たっても、今のままだとほとんど使えるとは私も思いませんので、もっと使えるようにしていくにはどうしたらいいかを含めて、今、向こうに投げかけをしております。その結果をもって、また自治会長会議の中で、ゼンリンさんからこういう話が出たと。いろいろな返したいという話もちょうんと向こうに伝えて、どういう対応をしていくかというのもゼンリンとの協議の中で今後決めていくことになると思いますけれども、そのような形で今、進んでおりますので、もう少し待っていただければ、その回答とともに自治会長会議の中できちんと結論を出させていただきたいなと思っております。

表紙の件の点字ブロックについては、大きな表紙の中で一番、目についてしまって、今、現実的に開成駅の点字はあのような状況があるということで、これは、できるだけ早く点字ブロックは改修をして、きちんと目の不自由な人が使えるような形に改修をしていくというふうに直させていただきたいというふうに考えておりますので、ご理解のほうもぜひよろしくお願いいたします。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

佐々木議員。

○1番（佐々木昇）

今、町長から町のほうのチェックミスというようなお言葉もいただいた中で、これから、また方向性を決めていくということなので、方向性が決まりましたら町がしっかり責任を持って町民の方たちに対応していただくということでよろしいでしょうか。確認させてください。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

きちんと責任を持って対応させていただきます。

○議長（茅沼隆文）

佐々木議員。

○1番（佐々木昇）

ぜひ、町民の方たちの理解を得られるように、丁寧な対応でよろしくお願いいたします。

続きまして、もう一つなのですけれども、ちょっと反省というか、ごみ袋の件な

のですけれども、このゴミ袋が最近、切れやすくなったというような声も聞くのですけれども。3月のお知らせ版に原材料が上がったということで厚みが薄くなるというふうなお知らせはあったのですけれども、タイミング的に、このゴミ袋、デザインを変えたのと同じくらいになってしまいまして、デザインを変えたから切れやすくなったのではないかなどという声も聞くのですけれども、確認なのですけれども、そういったことではなく、あくまでも原材料が上がったという理由であるのかということをやっと確認させていただきたいと思います。

○議長（茅沼隆文）

環境防災課長。

○環境防災課長（秋谷 勉）

今、佐々木議員のおっしゃるとおりでございます。ゴミ袋の原材料のポリエチレンなのですが、そちらの、さらにその原料のナフサという石油から生成される物質があるのですが、この価格が大分上がっていきまして、24年から25年にかけて28%上昇したという形の中で、平成26年度で一回、値上げをさせていただいております。それで、昨年11月ごろに再度、ナフサというものが12%程度、また原料が上がったので、再度値上げをしたいというような話がありました。

ところが、2年連続の値上げは町民生活に大きな打撃があるだろうということで、何とか抑える方策を考えてほしいということで、一応、規格上の強度は保っているという話でしたので、もう1ランク薄くして、使う原料を少なくするという形にはなりますが、薄くした中で対応しようということになりました。また、現実には、その薄さで他の自治体でも使っている例があるということもありましたので、薄くした中で対応するというので、今年、27年度向けのごみ袋については、一般家庭向けのごみ袋について、価格は据え置きで薄くしたというところでございます。

ただ、佐々木議員がお聞きのように、町のほうにも切れやすくなったというお話はいただいております。生ゴミ削減キャンペーンで各地域を回らせていただきましたけれども、その際にも、そういうご意見はいろいろ出てまいりました。町のほうに電話等での苦情も寄せられておりますので、原料の価格のぐあいとの調整もありますけれども、また減量が下がればもとに戻せるということもございまして、その辺も含めまして。今のままでは、ちょっと薄くて使い勝手が悪いのかなというところもございまして、価格の調整の部分はございしますが、来年度に向けては、もとに戻す、厚さを最低でも、もとに戻す方向で検討していきたいなというふうには考えてございます。

○議長（茅沼隆文）

佐々木議員。

○1番（佐々木昇）

今、来年度、もとに戻す方向でというお答えをいただいたのですけれども、この辺、町民の意見とかをお聞きになるとか、そういった感じのところはないのでしょうか。ちょっとお聞きします。

○議長（茅沼隆文）

環境防災課長。

○環境防災課長（秋谷 勉）

今、結構、もう既に苦情はいただいておりますので、薄いよという意見は十分入ってきていると思います。ただ、そうなると、逆に今のままでいいよ、値段が安いほうがいいよという意見を吸い上げる機会をつくるかどうかということでしょうか。そういうことなのだろうと思いますが、今、どちらかという破れてしまうという声のほうが大きいというふうに判断しておりますので、基本的には、もとの厚さに戻したいというふうに思っております。

それから、直前に調べた今のナフサの価格の状況ですけれども、ちょっと落ちついてきているようですので、価格は抑えたままで、もとの戻せるのではないかなというような算段もちょうとしておりますので、もちろん原料ですから、また、いつ上がるかということもありますから確約はできませんけれども、もとの戻していききたいというふうに今、現状では考えております。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

佐々木議員。

○1番（佐々木昇）

ぜひ、町民の方たちの声を聞いて最良な対応をしていただきたいというふうにお願いいたしまして、次の質問に移りたいと思います。

体育祭の取り組みについてですけれども、先ほど同僚議員の質問で理解いたしまして、今回、体育祭を開催するに当たって趣旨ですか、日本一元気・健康・きれいな町づくりを推進するため、スポーツを通じ町民同士の交流の機会をつくり、町民活性化の促進を図ることを目的とされております。私、この趣旨、非常によいものだと思っていますので、今後、先ほどから出ておりますけれども、町民の方からの意見を重視した中で、この体育祭も含めて、教育とか文化的なところでも、こういった趣旨に基づいた取り組みを検討していただきたいというふうに思います。この辺は意見として言わせていただきまして、続いて次の質問に移りたいと思います。

続きまして、サイクルスポーツフェスタの関係で質問させていただきます。

この事業は、先ほど答弁で足柄上地域をめぐるロングライドを開催するというところで、広域的な催し物として今後、非常に可能性がある事業かなというふうに私は思っているのですけれども、この辺で関係する自治体さんの状況なども含めて、町の考え方をお聞かせください。

○議長（茅沼隆文）

企画政策課長。

○企画政策課長（岩本浩二）

お答えします。

今回、サイクルフェスタの開催に当たりまして、ロングライドのコース、これを



25キロ、60キロ、100キロの3コースを設定する予定でございます。当然、100キロですね、競技ではありませんので競争ということではございませんけれども、100キロをある程度の時間内で走っていただくというようなことで、休憩所的なものをつくるというようなことがございまして、近隣の自治体にそういうものの設置の協力依頼に伺いましたところ、皆さん、多くの方が自転車競技を通じていらっしゃるというようなことで、ご自分の自治体の特産品ですとか、そういう観光スポットの紹介をする機会だとか、ある意味、太鼓をたたいて歓迎のイベントをしたいというようなことで、いろいろなご意見をいただきました。

今回、60周年記念というようなことで開成町単独の開催ということで、コース設定等の調整で近隣の自治体にお声かけをしたわけでございますけれども、今後、議員おっしゃるとおり、広域的な視点で、ある意味、足柄上地域の活性化に自転車というものに一役買っていただくというようなことのイベントづくりということについても、来年度以降、そういうことが可能かどうか、近隣自治体とも調整をしながら、継続するというような部分も含めて、広域的な視点で考えていきたいというふうに思っております。

○議長（茅沼隆文）

佐々木議員。

○1番（佐々木昇）

ぜひ、広域的な盛り上がるイベントとして、今後、盛り上げていっていただきたいというふうに思います。

また、この日、同時に開成水辺スポーツ公園でもイベントが開催されるようですが、これ、1人でも多くの人に参加していただくように広報活動をしっかりやっていただきたいというふうに思いますけれども、もうちょっと内容と広報活動等の考えをお伺いいたします。

○議長（茅沼隆文）

企画政策課長。

○企画政策課長（岩本浩二）

お答えいたします。

先ほど申し上げましたロングライドは外で行われるということと並行して、開成水辺スポーツ公園内で各種イベント、教室等の開催をさせていただく予定でございます。内容といたしましては、ここ数年、行っておりますシクロクロスのコース等、特設コースをつくりまして、そこでのパフォーマンスですとか、子どもさん向けにキッズサイクル教室、それと変形自転車等の貸し出し等も行っていきたいというふうに考えてございまして、広報等につきましては、今後、チラシ等を配付する、広報等を使うというようなことで発信をしてみたいと思います。

以上です。よろしく申し上げます。

○議長（茅沼隆文）

佐々木議員。

○1 番（佐々木昇）

ぜひ、この事業も、自転車の町としてふさわしい、今後につながっていくような魅力あるイベントを期待しております。

ちょっと余談になってしまうかもしれませんが、今、ママチャリレースなんていうのも、ちまたでちょっとはやって、何か、これもおもしろそうなので、ちょっと一言、つけ加えさせていただきます。

続きまして、冠事業・連携事業への具体的な内容はについて、お伺いいたします。

先ほど全事業の進捗的な説明がありましたけれども、現在、8割方の事業が修了しているということで、その中で、評価は避けますけれども、事業が盛大に開催され満足されているということでした。その中で、私も聞いている中で、「魁聖関を応援しよう、大相撲観戦バスツアー」とかジュニアサマースクールなどは参加希望者も多く、非常に好評だったようですけれども、評価とかはしていないようですけれども、こういった評判だった事業は来年度以降にもぜひ継続して取り組んでいただきたいというふうに思いますけれども、そろそろ予算編成、この辺の時期になってくると思いますけれども、その辺について、お考えをお聞かせください。

○議長（茅沼隆文）

企画政策課長。

○企画政策課長（岩本浩二）

お答えいたします。

魁聖関を応援する大相撲観戦ツアーというようなことで、今回初めて開催をさせていただきました。今回、参加希望者が多くて、抽選で参加の方を決定したというようなことがございまして、かなり好評をいただいております。魁聖関の所属されている友綱部屋さんに関しましては、あじさい祭等でも交流を深めているというようなこともございますし、また友綱部屋の親方のほうにもご相談を差し上げて、部屋の見学等も含めてやっていただけるかどうかというようなことも、前向きな方向で調整をしてみたいというふうに考えてございます。

それと、ジュニアサマースクールにつきましては、60周年の枠の話で申しますと、工場会の皆様のご支援というようなことの中で、富士フィルムの先進研究所、それと富士ゼロックスさん、あとパナック工業さん、あと中栄信用金庫さんのご協力をいただいて教室、見学会等を開催させていただいたというようなことがございます。また、継続するというようなことで、こちらも前向きに考えてまいりたいというふうには思っておりますけれども、相手の企業の皆様ともご相談させていただいた上で、協力をいただきたいということを働きかけていきたいというふうに考えてございます。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

佐々木議員。

○1 番（佐々木昇）

財政的な面もありますので、あれもこれもというふうにはいかないと思いますけれども、毎年だけではなくて隔年とかでも、その辺も踏まえた中で、好評だった事業をできる限り今後も実行していただきたいというふうに思います。

続きまして、阿波おどりについてお聞きしたいと思います。

もう、これ、いよいよ来週に迫ってきましたけれども、町を代表するお祭りの一つですけれども、町の魅力を町内外へ発信する大事なイベントだと思います。今年、あじさい祭が形態的にといいますかハード的に、私的に大きく変わったところがあったのかなという感じなのですけれども、それでも過去最高の観客数だったということで、ブランディング等によるPR戦略の成果なのかなというふうに感じております。阿波おどりの、現在、パンフレット等を見ますと、形態的に大きく変わったようなところが特にはないのかなというふうに感じるのですけれども、この辺、阿波おどり、今年はどうようなイベントにしようと考えて取り組んだのか、お伺いします。

○議長（茅沼隆文）

産業振興課長。

○産業振興課長（井上 新）

阿波おどりの関係ですので、私のほうからお答えをさせていただきます。

今年は60周年記念事業ということで、もう数年前より連協会さんともお話をさせていただきまして、前身の高円寺さんであったりとか大和であったりとか、そちらもそうなのですけれども、各会場のことを演舞場ということで専門的にはやられているということもありまして、60周年を記念いたしまして各会場を各演舞場というように改名をさせていただいております。

それと、来週に迫ってまいりましたので、ちょっと宣伝方々、お話をさせていただきますけれども、開成町の阿波おどりにつきましては、ほかのところと違った点が2点ございまして、ほかの高円寺さんとか有名なところは阿波おどりを踊るというだけなのですけれども、開成町の場合は、最初にオープニングパレードで全連が一斉に、まずお披露目をする、それから各会場に散っていただいて踊っていただくといったところが特色でございます。

それと、最後に総踊りということで、昔は文命中学校とか開成小学校とかに集まって踊っていましたが、最終的には、今、各会場で踊りをするといった総踊り、これも、ほかのところにはないといった特色がございます。

それと逆に、開成町にはなくて、ほかのところにあるといったところでは、高円寺さんあたりですと、ちゃんとステージを設けて。開成も以前、コンテストを福祉会館でやっておりましたが、ステージでの演舞といったものが特色としてございます。ただ、開成町の場合はコンテストで、そこでやったのですけれども、やはりコンテストは路上でやろうよということでやっておりますので、それも網羅はしているのかなといったところは自負しているところでございます。そういったところが特色となっております。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

佐々木議員。

○1番（佐々木昇）

せっかく今年、60周年ということでしたので、交流人口といいますか観客さん、また町内の方々が阿波おどりに触れられるというようなことで、多少、ちょっと規模を大きくとか、何かイベントがあってもよかったのかなと。例えば、中央通り全て使ってやられるとか、もう全然違うのですけれども、とにかく足を運んでもらおうということで、例えばですけれどもサンバとか、そんなチームも呼んでみるとか、先ほど同僚議員が言われたような綱引き大会とか、そんな何か一つイベントを考えてもよかったのかなというふうには思うのですけれども、この辺について、ちょっと考えをお伺いさせていただきます。

○議長（茅沼隆文）

産業振興課長。

○産業振興課長（井上 新）

60周年記念においては、そういった演舞場といった形なのですけれども、今年は実は28回目でございます、2年後には、すぐ30回が控えているといったところもございますので、そういったところの参考という形ではお聞かせいただきたいと思います。

それと、あと、もう一つ開成町で特徴的なのは、今年は22連、踊り手の方は1,000人近く踊られるのですけれども、開成町は全ての会場を全ての連が踊るといった特色がございます、ほかの大きなところだと全部の会場はとても回れないといったところもありますので、そういった特徴がございます。そういったところを踏まえまして、タイムスケジュールとか、そういったところを考えていった中では、今、結構ぎりぎりなところかなといったところはございますけれども、開成町は連協会さんもございますので、踊り手の方たちのご意見等も参考にさせていただきながら準備を進めていきたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

佐々木議員。

○1番（佐々木昇）

阿波おどりは町を代表する毎年行われるイベントですので、ぜひ、今後も町の魅力を十分にアピールできるイベントにしていきたいというふうに思います。30回目を期待しておりますので、よろしくお願いいたします。

続きまして、60周年記念ロゴの入ったグッズ等の反響はについて、お伺いいたします。

このグッズなど販売もしているのですけれども、現状、売れ行きなどはどうなのでしょうか、お伺いします。

○議長（茅沼隆文）

企画政策課長。

○企画政策課長（岩本浩二）

記念グッズということですが、特に、あじさいちゃんグッズというようなことでお答えをさせていただければと思います。あじさいちゃんのロゴを使ってバッジですとかタオル、ポストカード、それと郵便局さんともコラボさせていただいて記念切手シート、こちらのほうの発行。それと、皆さん、着ていただいておりますTシャツ、それでイベントを大いに盛り上げていただいているというところがございます。どの商品につきましても、イベント等に持って行って販売等をさせていただいているというところもございますが、好評をいただいているというようにことで認識をしているところでございます。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

佐々木議員。

○1番（佐々木昇）

ぜひ、イメージ戦略、PR戦略を今後も積極的に行っていただきまして、まだ残っているイベントも、もっと盛り上げていただきたいというふうに思います。そして、これまで60周年として取り組んだ事業も含めまして、その成果を先ほど町長答弁にもありました定住促進等の政策達成に向かって、今後、どのように反映させていくのか、午前中、同じような質問が同僚議員からありましたけれども、最後の質問になりますので、考え方のほう、答弁よろしく願いいたします。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

60周年を機会にブランディングで開成町の価値を高めていこうということで、その一つとして「田舎モダン」というキャッチフレーズや「あじさいちゃん」のゆるキャラの図柄、これを使って、今、ここまで来て好評を得ているという評価をいただきましたし、実際、私も、そういうふうな感じはすごく受けていて。あじさいちゃんについては、特に女性からは好評だという中で、これを使ってもっともっと外にPRをして示していかないと意味がないので、幾ら身内で自己満足していてもいけないので、これを、できるだけ外に発信をうまくしていくかと。そういう中で各種、ひなまつりが始まって、あじさい祭、その後、風鈴祭、この間の花火大会も含めて、チラシ、ポスターが、大分、これもイメージが外に広がってきたのかなと。あのチラシを見ると、開成町の何かイベントがあるのだなという統一的なチラシをずっとつくってききましたので。

ここに来て、大体、ここで開成町の大きなイベントが全て終了しますので、それを、また来年以降、きちんとつなげていかなくてもいけないという部分において、まだまだやっていくことはたくさんありますけれども、やはり最終目標は定住人口

を増やしていくと、開成町のファンを増やしていくと。これから北部の交流人口を増やしていく部分においても、これを活用してやっていく必要があると思いますので、もっともっとPR活動には力を、これからも、来年以降もしていきたいと思っております。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

佐々木議員。

○1番（佐々木昇）

開成町は、60周年を機に新たなスタートとして人口も増え大きく変わっていかうとしておりますけれども、それと同時に、今まで培ってきた住民、町民との信頼関係、サービス、この辺もさらに充実させていただくようなまちづくりを今後させていただくことをお願いいたしまして、私の質問を終わらせていただきます。

○議長（茅沼隆文）

ここで暫時休憩いたします。再開を15時15分いたします。

午後3時04分